

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571700259		
法人名	株式会社はあとふるあたご		
事業所名	はあとふるあたごグループホーム五泉		
所在地	新潟県五泉市太田1丁目2番3号		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2		
訪問調査日	令和5年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の中で共に暮らす」という理念のもと、お客様一人一人の生活を大切にし、出来るだけ今までの生活や人間関係の継続ができるよう、個々の想いを汲み取りながら地域との関りを大切にしています。地域行事への参加や、ボランティアに参加する機会を作ったり様々な交流を持ち継続して関わっていただけるよう活動しています。個々の持つ力が発揮できるような役割を持ち、生き生きとした生活が続けられるよう支援し、事業所内でのイベントでも楽しみを感じる生活を送ることができるようにしています。今後は若年性認知症の方の受け入れや、認知症カフェなど行っていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所19年目を迎えた事業所である。家族との絆を大切に考え、居室担当が毎月利用者の写真を載せた手紙を送り生活の様子を伝えたり、職員が交代でブログを作成したりSNSに動画をあげて、行事や外出、料理、季節の壁飾り等の情報を積極的に発信している。実際に、事業所利用のきっかけがブログやSNSでの利用者の生き生きとした生活ぶりを見たから、という事例もあった。

携帯電話を持っている利用者には、家族との会話等の支援をして関係が途切れないように努めている。コロナの5類移行を受けて、家族との居室での面会も再開した。運営推進会議も書面開催から対面開催に戻したところである。

また、地域との関わりを大切にしており、8月には夏祭りを事業所で開催した。開催にあたっては、事前に夏祭りの案内を地域の回覧版で回してもらい、子どもたちも楽しめるように、キッチンカーやパルーンショーのボランティアに来てもらった。近隣の人たちが子ども連れで参加し、利用者と交流してもらうことができた。

職員は、毎日食材等の買い物には利用者と一緒に出掛けたり、外出希望があれば、できるだけ個別に対応してドライブに出かけるなど利用者支援にきめ細かく対応している。管理者と職員間にはいつでも、なんでも相談したり話をする体制ができています。共用型認知症対応型通所介護事業所の指定も受け、地域の認知症高齢者の日中の支援を受け入れている。他の事業所でも対応が難しいPTSDのある方も、職員が一丸となって支援している。

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の基本理念、事業所の理念を揚げ、「我が家」であることを大切に、地域の一人として暮らせるよう支援している。家族、近隣住民、ボランティアと日常生活、行事などで関わる機会を作っている。	事業所の理念「地域の中で共に暮らす」を揚げ、「地域の一人としてひとりひとりを大切にしたい暖かな我が家を作ります」と事務室に掲示している。しかし、職員への周知や、実践につなげる振り返り等のための具体的な機会は設けていない。	ユニット会議や日頃の介護ケアを通じて話し合いをする中で理念の振り返りと確認がされ、より一層の理念の実現につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	馴染みの美容室、スーパー、飲食店の利用など地域資源を活用し交流を図っている。ボランティアの受け入れも行っている。	事業所の広報誌は回覧板で回してもらっている。利用者のちぎり絵などの作品を市の施設に展示させてもらい、見学に行ったりしている。地区のクリーン活動にも事業所として参加している。また、事業所で夏祭りを開催して、近隣の方や子どもたちにも来てもらい、利用者と交流してもらうことができた。今後もボランティアの方に声かけしていくことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学校や高等学校からのボランティアや職場体験の受け入れを行っている。社協ボランティアセンターとも協力し、古切手切りのボランティアとして地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催。ホームの活動、取組み状況を報告し意見を頂いている。意見を元にユニット会議で職員へ報告し、検討後サービスの質の向上に活かしている。	コロナ禍で書面開催としていたが、今年度から対面開催を再開し、リビング兼食堂のフロアの一角を利用して実施している。会議には、家族代表、自治会長、地域包括支援センター担当者、民生委員、行政担当者の参加としており、今後の利用者の参加についても検討している。会議では事業所の状況を報告して共有するほか、参加者から意見を得てサービス向上につなげている。職員にはユニット会議で報告し、家族へは議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターの担当者とは会議やその他、日常的に情報交換を行っている。	コロナ禍では市から何度も指導・助言をもらい、適切な対応をすることができた。市からの研修案内はメールでもらい、随時参加している。市内のグループホーム連絡協議会も11月に再開予定である。また、市担当者等から緊急ショートステイについて随時相談があり、可能な限り対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会に管理者、リーダー、衛生委員が参加しユニット会議で伝達している。特にお客様個々のBPSDに合わせた対応に力を入れている。	「身体拘束委員会」で研修を実施している。会議には管理者、リーダー、衛生委員が参加して、他の職員には伝達講習を実施している。特にBPSD（認知症による行動・心理症状）に合わせた対応に事業所をあげて取り組みを強化している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修に参加し伝達講習を行っている。入浴時や日々の関わりの中で全身観察の実施。施錠しない、不適切な言葉使いについての検討を行い虐待防止に努めている。	「身体拘束委員会」で定期的に研修を実施している。コロナ禍からeラーニング研修を多く取り入れている。不適切ケア等についてはその都度管理者から職員に話をしている。日常的に職員とは随時面談もしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を随時検討し、成年後見制度の提案や市への相談、情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて十分な説明を行い随時疑問や不安に対して返答を行い理解・納得して頂いているか確認をとっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議の開催で意見をいただく場を設けている。また、面会に来られた際も意見を伺い要望を取り入れるよう努めている。	意見箱を設置しているが利用はない状況である。年1回家族へのアンケートを実施しており、今年度も実施予定である。家族が受診や面会等で来訪した折にはその都度情報を共有し、希望や意見を聞いている。コロナの5類移行に伴い面会制限がなくなり家族が来訪する機会が戻る中で、家族と職員との意思疎通も図りやすくなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で意見交換は出来ている。現場で積極的な意見や企画がしやすい雰囲気作りをしている。職員と面談する機会も設けている。	管理者は常に職員に声かけして意見や希望を聞いている。毎月のユニット会議では、職員から、コロナ禍でも少しでも利用者に楽しんでもらうために、レクリエーションの工夫、ソファの新調や玄関に花を飾ること、畑づくりなどの意見が出され、実行した。管理者会議も定期的に実施されており、運営法人に対する事業所からの意見・要望を伝える体制がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理や定期的な面談により、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。就業状況など、個々の希望が叶えられるよう職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修機会はある。社内で全社員での研修は日程を調整しより多くの社員が参加できるようにしている。事業所内では研修以外に定期情報誌やブログ作成等全員が目を通し確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他事業所とは管理者、リーダーを中心に定期的な交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問に伺う・当ホームに見学に本人と家族と一緒に来所してもらい他者と一緒にお茶を飲んで頂くなどし雰囲気に馴染んでもらえるようにしながら意向要望など以前にお聞きし関係作りしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接でご家族の不安や要望をお聞きし、良好な関係作りに努めている。面会時にも状態の報告も交えて時間をかけ話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向が合致しない場合もあるので安全面を優先しながらも互いの妥協点を探り双方の意向満足に繋がるような支援を実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各フロア内で共同生活をする状況下において個々が不満や我慢がないように全体の状況を把握しながらの対応支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での生活状況など毎月担当職員が家族宛てのお伝え文章や写真等を作成しお渡ししている 家族からの返事をもらったりしながら本人にお伝えした関係性構築に努めている	居室担当職員が、写真入りの手紙を作成して毎月家族に送付し、生活の様子を伝えている。携帯電話を所持している利用者もあり、事由に家族と通信してもらっている。また、ブログやSNSを職員が交代で更新している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた床屋に行ったりお友達とのお喋りなど以前との関係が途切れないように時期や希望をお聞きしながら支援している	コロナ禍では、オンラインのビデオ通話で家族や遠方の親戚等との連絡を取ったり、友人等の面会は制限していたがなじみの床屋さんには来訪してもらっていた。また、携帯電話を所持している利用者には電話できるようお手伝いするなど、関係が途切れないようにしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の性格や特徴を理解し対人関係に支障が出ないよう配慮しながらホーム入居者様が互いを尊重し助け合うような関わり方が出来ているか様子をみながら支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご相談や書類依頼に対し迅速な対応を行い良好な関係性が保てるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向や希望は随時聞き取りしているが3か月毎のモニタリングを通して本人意向の変化などに注視し検討している	居室担当職員が時間を取ってゆっくりと利用者の話を聞いている。自分からこうしたい、ああしたいと話をしてくださる方が多く、必要時は介護支援専門員と相談して随時ミニカンファレンスを行って検討し、介護計画にも反映できるようにしている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前聞き取りや情報把握に取り組み なるべく生活を大きく変える事無く今までと同じような生活習慣で過ごせるよう支援している	入居前には管理者か介護支援専門員ができるだけ自宅を訪問して、生活の状況や動線等の確認を行っている。家族や、それまで利用していたサービス事業者、居宅ケアマネジャーからも情報をもらい、整理して、職員間で共有を図っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し身体的の無理がなく精神面も穏やかにやりがい張り合いを持って過ごせているか現状把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時のチームカンファレンス開催し本人・家族の意向を踏まえたサービス提案を行い本人・担当介護士・ケアマネとサービス担当者会議を開催し現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回居室担当職員がモニタリングをし、6ヶ月に1回検討会を行って、介護計画を作成している。コロナ禍では、担当者会議への家族の参加は控えており、家族には電話で丁寧に説明を行って意向確認をしてきた。個々の介護計画は職員がいつでも確認できるよう周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録しているが各職員が見返す時間と余裕のなさから情報共有に欠ける場合がある 担当職員からの声かけ提案でケア内容の変更を行うなど介護計画見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族状況に合わせ可能な限り柔軟な対応ができるようにホーム職員と調整しながら支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関は在宅時の主治医を継続している。近所のスーパーや美容院、床屋も利用。ボランティアの協力も得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には体調観察表・温度表を準備し本人・家族の意向をかかりつけ医へ情報提供し連携を図っている	入居者の中には今までのかかりつけ医の往診を受けている方もおり、家族が受診に同行している。受診時には体調観察表、温度表などを準備し、家族から医療機関へ持参してもらっている。受診後は支援ノートに受診状況を都度記載し、情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の個々の状態を記録・把握し随時看護師に報告し状態症状など相談しながら家族との連携を図りながら受診支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後から状態や経過を確認する連絡をMSWと取りあいながらスムーズな再入居ができるように常日頃からMSWとの関係性構築に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化されてゆくお客様の状態を迅速に家族にお伝えし方向性を明確にする事で本人・家族の負担が少なくなるよう十分に家族と相談をし進めている	入居時に、本人、家族には重度化した場合における対応について丁寧に説明している。状態に変化があるときは、その都度家族ともよく話し合い、対応を確認している。住みかえ等が必要な場合はスムーズに行えるよう関係機関と連携している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時に緊急時の対応や勉強会、マニュアル確認をおこなっている。防災訓練時には消防署よりAED、救命講習を受けている。	「衛生委員会」があり、看護師と連携してマニュアルの作成や研修を企画、実施している。特にコロナ禍では、ガウンテクニック等感染対策を重点的に実施した。また、利用者自身がより有効な手洗いを実践できるよう、利用者に説明し方法を学ぶ機会を提供した。マニュアルはいつでも確認できるようファイリングし、フローチャートをフロアに掲示している。AEDの使用や救命救急法の講習は全職員が受講済だが、更新等に向けて順次計画している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼夜想定での避難訓練を行っており、その都度マニュアルの見直しを実施している。	避難訓練は年2回昼夜想定で実施している。各種災害マニュアルは整備されているが、「衛生委員会」でより見やすい工夫など見直しも検討されている。備蓄品の一部はリストにも挙げて、点検もしている。	事業所として必要な備蓄リストの整備を行うことが望まれる。BCP(事業継続計画)も未整備だが、会社として検討中とのことであり、災害マニュアルの見直しを含めて事業所として具体的に整備されることが望まれる。また地域との協力体制の構築にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のお客様への言葉かけを偏りなく万遍に行うような配慮をしている 人格を尊重しながら気分良く過ごしていただけるような対応を行っている	「ホスピタリティ委員会」で接遇研修を企画し、参加者から他の職員への伝達講習を実施している。また、ユニットごとに目標を掲げ、日々意識するように心がけている。言葉遣いを含めた身だしなみチェック表を職員に配布して記録してもらい、それをもとに検討しながら、利用者個々への言葉かけに十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定ができるような問いかけや希望を言いやすいような環境的配慮を心かけて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿いながらも本人の状態や気持ちに合わせて本人ペースに合わせて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服やおしゃれなどの本人の希望を聞きながら身体状態や介助に支障がない程度まででの支援を心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の食形態や用具などを準備し食べたい希望メニューをお聞きし献立をたてるなどの支援をしている 調理や洗い物茶碗拭きなど出来る範囲で行っていただいている	朝食・夕食は外部業者から半調理の食材が届き調理している。昼食とおやつは利用者の希望を聞いて献立を作り、毎日買い物に出かけている。食事形態は、利用者の状態に応じて、本人の了解のもとで刻みやミキサー食、ムース食等に対応している。おやつもできるだけ手作りするほか、お弁当を取ったり、キッチンカーに来てもらったり、数人ずつ何回かに分けて外食に出かけるなどして楽しんでいる。また、利用者のできる範囲で野菜の処理、盛り付け等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々咀嚼しやすい食形態で提供し摂取量の確認や水分補給を行い状態把握を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き誘導・介助を行い口腔内清潔保持に取り組んでいる 義歯洗浄消毒など衛生管理に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄パターンを見出し排泄汚染なく過ごせるようなトイレ誘導を行っている 昼夜の排泄用品を区別しながら自立に向けての取り組みをしている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいるが、原則トイレで排泄を心がけ、見守りをしている。失禁や放尿等のある利用者に対し、しぐさなどを観察して声かけ・誘導したことで改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供・特に好みの摂取しやすい物やこまめな提供を行い毎日の体操や個別腹部マッサージへの声かけなどを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴への声かけが多くなるよう一日おきの誘導をし本人の体調と希望に合わせた曜日や時間に入浴ができるよう配慮している	週2～3回をめぐに、午前と午後、希望に応じて入浴してもらっている。入浴剤やシャンプー、リンスなどそれぞれ好みのものを準備し、職員が1対1で見守りしながら、リラックスして入浴を楽しんでもらえるよう支援している。希望があれば好きな音楽を流すなどしながら、ゆっくりと楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングや習慣を大切に昼寝や就寝している。不眠時は職員と会話をしたり温かい飲み物を提供しリラックスできるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で情報共有し会議などで内服の検討をしている。副作用の確認、内服変更時は申し送りで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・畑作業・花壇等、本人の嗜好から役割分担に繋げることで楽しみや張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物への同行、行きたいところへの外出等出来る範囲で行っている。ドライブや、散歩も天候を見て適宜行っている。	毎日の食材の買い物などには利用者と一緒に出かけたり、個別に行きたいところへドライブをしている。また駐車場の空き地を利用して畑を整備し、野菜やサツマイモを育てている。ユニットごとに交代で水やり当番を決めて、利用者が戸外へ出る機会をつくり、利用者自身が役割を持てるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、本人用の財布で小遣いを管理し、買物が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員から家族あてへ電話を入れる際に本人とも会話が出来るよう受話器を渡したり 本人からの手紙を預かって投函したりの支援を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるような飾りつけなどを各フロアに掲示展示し職員と一緒に鑑賞し会話をするなどしている 毎日の清掃をこまめに行い清潔保持に努めている	リビング兼食堂にはソファを設置して、利用者が自由にくつろげる工夫がなされている。ユニットごとに利用者と相談しながら飾りつけを行っており、利用者が作成した貼り絵や、職員と一緒に作成した季節の飾り、行事の写真などが飾られている。毎日清掃を行い、換気や温度、湿度などにも留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロア内にくつろげるソファや一人掛けの椅子を数台設置し好きな時に好きな場所でくつろげるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や道具などを家族に持参してもらい置き場や使い勝手等を本人に確認しながら設置準備している	ベッドは事業所で用意しているが、それ以外のものは持ち込み可能とし、使い慣れた家具や椅子、テレビ等が持ち込まれてる。家具の配置は家族の協力も得て本人に確認しながら行っている。また、利用者自身がスケジュール管理をできるように壁にカレンダーを貼るなど配慮している。掃除は居室担当職員が一緒に行い、衣類の入替や温度・湿度の調整、換気などは職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能や能力に応じた生活家事作業などを見守りの元でして頂き達成感と満足感が持てるように心掛けた支援をしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63
			2. 利用者の2/3くらいの	
			3. 利用者の1/3くらいの	
			4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64
			2. 数日に1回程度ある	
			3. たまにある	
			4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67
			2. 利用者の2/3くらいが	
		○	3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
			職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
		○	1. ほぼ全ての家族と	
			2. 家族の2/3くらいと	
			3. 家族の1/3くらいと	
			4. ほとんどできていない	
			1. ほぼ毎日のように	
		○	2. 数日に1回程度	
			3. たまに	
			4. ほとんどない	
		○	1. 大いに増えている	
			2. 少しずつ増えている	
			3. あまり増えていない	
			4. 全くいない	
		○	1. ほぼ全ての職員が	
			2. 職員の2/3くらいが	
			3. 職員の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
		○	1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらいが	
			3. 利用者の1/3くらいが	
			4. ほとんどいない	
		○	1. ほぼ全ての家族等が	
			2. 家族等の2/3くらいが	
			3. 家族等の1/3くらいが	
			4. ほとんどできていない	